

自然環境・景観に溶け込んだ
親しみのある砂防施設

日向山床固工群

主に花岡岩類で占められ、おびただしい量の土砂生産・流出を繰り返す箆川流域。箆川の右岸には立山・アルペンルートの出入り口にあたる県道扇沢大町線が走っていますが、河床との比高差が小さいため、災害時には観光客が閉じ込められる危険性があります。そこで、この県道および周辺の民家、事業所、ホテル、ゴルフ場、ならびに下流の大町市街地を保全対象として、河床の不安定土砂の移動防止と固定、流況の安定化を図るために平成16年度より着工しました。

設置にあたっては、箆川の恵まれた自然環境・景観を重視。道路沿いで一般の目にも触れやすい施設となることから、自然石を活用するとともに、工事後は自然植生による回復を図ります。また、流量が豊富で魚影の濃い場所柄、イワナやカジカなどの生息範囲を広げるために魚道を設置したり、瀬や淵、礫のある清流環境の保全に努めます。

日向山床固工群計画地全景



大量の土砂生産・流出を繰り返す箆川

箆川砂防施設



箆川第1号砂防堰堤



大町市街を望む



箆川橋
日向山床固工群の整備に伴う河道拡幅により、箆川橋の架替を行う為の箆川橋仮設橋を設置するとともに県道を築造しています。



完成した床固工群(上流部)



寄沢砂防堰堤



箆川第2号床固工(魚道の設置)

日向山床固工群計画図

